

佳作
(高校部門)

浦和実業学園高等学校(埼玉県)

1年

やなぎた
柳田 秀典

母は強し

母

朝からいつもの親子げんか。勉強の嫌いな僕は、高校受験が不安で、母に八つ当たりしてばかりだった。その日は、母の作った弁当も持たずに、遅刻ぎりぎりに家を出た。意地を張って弁当も持たずに学校に来たものの、困ったのは自分だ。昼ご飯、どうしよう。3時限目の体育の着替えの時、見覚えのない封筒がシューズ袋から出てきた。500円玉が一枚入った封筒には、母の字で「母は強し」と走り書きがあった。いつの間にか？

冗談めかして書いてあるけれど、きっと母はそんな矜持と気概で僕を育ててくれているんだと遅蒔きながら分かった。言い返す言葉が、「ありがとう」しか見つからなかった。